

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京学芸大学
整理番号	A②-3
事 業 名	東アジア教員養成国際大学院プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、日中韓の教員養成大学の拠点である東京学芸大学、北京師範大学、ソウル教育大学の3大学が共同し、教員養成大学院プログラムにおける東アジア地域の相互理解と連携を担える学校教員、スクールリーダー及び教育研究者を育成することを目指し実施された事業である。 事業展開では、本事業の実施を大学の第3期中期目標・中期計画の中に明確に位置付け、短期研修、長期研修（交換留学）、ダブルディグリー・プログラム（DDP）から構成される「東アジア教員養成国際大学院プログラム（IGPTE）」を実施するため、3大学で協議の末、質保証・質向上を前提とした単位の認定・互換等の取り決め及びキャンパスアジア指定科目を定めた。DDPについては、各国の文化や状況に配慮し、骨格は3大学間で共通するが、柔軟性を持たせた現実的な制度設計となっている。教員養成というグローバルに共通プログラムを形成することが難しい分野において、3大学で共通モデルを構築しDDPを開設した点は評価できる。また、IGPTEに基づき構築した3大学のDDPをより堅固な取組とし、グローバルに活躍できる人材を継続的に輩出できるよう努めていくのみならず、こうした経験を踏まえ、東アジア教員養成国際コンソーシアム（ICUE）加盟校、更にASEAN地域との連携へと拡大し、同時に国内の教育系大学への横展開によるプログラムの質保証・質向上を目指している点も評価できる。 一方で、相手国の学校教育や教育にかかわる事項は、当該国の言語に深く精通することが求められるという判断から、言語ラボによる語学学習の支援・指導体制を充実させる取組を進めてきているが、外国語力基準を達成した学生数は目標値に達していない。今後、語学力・語学運用力水準の引き上げを意識した更なる対応が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	